

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	桂川・支川対策特別委員会		会議場所 全員協議会室
			担当職員 佐藤
日 時	令和2年6月30日(火曜日)	開 議	午後 1 時 30 分
		閉 議	午後 2 時 29 分
出席委員	◎西口純生、○竹田幸生、小川克己、並河愛子、木村勲、藤本弘、菱田光紀		
出席理事者	【まちづくり推進部】並河部長、関事業担当部長 [都市計画課]関口課長 [桂川・道路整備課]信部課長、鹿島広域事業係長		
出席事務局	鈴木議事調査係長、佐藤主任		
傍聴者	市民1名	報道関係者0名	議員1名(奥野)

会 議 の 概 要

1 3 : 3 0

1 開議（西口委員長あいさつ）

（事務局日程説明）

[まちづくり推進部入室]

2 案件

・河川改修の状況と今年度の計画について

[まちづくり推進部長あいさつ]

[桂川・道路整備課長より資料に基づき説明]

1 3 : 5 3

[質疑]

<西口委員長>

下大津の移転については、おおむねできつつあるが、旧堤の撤去の予定はいつごろか。

<桂川・道路整備課長>

確認して報告する。

<並河委員>

6 ページの大井の堤防調査については、自治会からも要望があったが、調査結果はどうであったのか。

<桂川・道路整備課長>

調査結果としては、盛土等の補強や矢板の一部施工が必要であると聞いている。今年度は、ほ場整備等との調整を図りながら、対策工法の設計を実施される。

<藤本委員>

雑水川は、構造的にあふれるようになっている。川底をもっと深くして、流れをス

ムーズにできないのか。構造的に欠陥があるように思うがどうか。

<桂川・道路整備課長>

確かに緑橋付近であふれた水は、南と北にあふれて、家屋に浸入してしまう状況である。京都府の改修計画では、川幅を暫定で広げてその後、計画河床まで下げる計画であると聞いている。計画河床まで下げるには、右岸の根入れの問題等があり順次進めていただいている。

<藤本委員>

その計画は30年計画と長いので、もっと改修を早めてもらえないのか。

<まちづくり推進部長>

桂川本川も上下流のバランスを図りながら、嵐山の進捗に合わせてようやく上流の工事が進められている。根本的に時間はかかっているが、春日橋など南郷池より下流側にネック部があり、まず下流側から改修して徐々に上流に上がっているため、一気に進まない状況である。緑橋の上流についても、川幅を広げているだけでなく、将来川底を下げてよりよいように護岸を深くしている。進められる護岸整備は進めている。最終的な計画は川幅を下げることであるが、下流の進捗が伴わないためこのような進め方になってしまう。緑橋の上流についても、優先的に進める必要があると考えるので、下流の早期改修に向けて引き続き要望していく。

<小川委員>

9ページの桂川の樹木伐採・浚渫は、左岸なのか右岸なのか。

<桂川・道路整備課長>

京都府から特に聞いていないが、堆積の著しい場所と聞いている。

<小川委員>

右岸側の伐採の計画が以前あったかと思うので、左岸か右岸か確認してほしい。

<桂川・道路整備課長>

京都府に具体的な実施箇所を確認する。

<小川委員>

地元にも伝えてもらいたい。

<藤本委員>

以前市長が、千代川乗船場からゴムボートで川下りをされたときに、石がたまっているので、浚渫しなければボート遊びができないと言っておられたが、今年度の計画で浚渫して、ボートが下れるように整備することも含まれるのか。

<まちづくり推進部長>

9ページの樹木の伐採・浚渫については、河川の機能を維持するために必要な施策であるため、含んでいない。

<西口委員長>

七谷川の下流部分の改修について、当初の計画は1.2キロメートル掘削する予定であったが、天井川区間の工事が60メートルしか進まないこととなり、地元説明のあと混乱があったが、いろいろと働きかけていただいて、120メートルまで進むようになった。もし、今年度900メートル実施すれば残りの距離は。

<桂川・道路整備課長>

残り約1.4キロメートルである。

<西口委員長>

第1陸閘までの距離は。

<桂川・道路整備課長>

約80メートルである。

<西口委員長>

あと2～3年で天井川区間の最上流まで到達できるのか。

<桂川・道路整備課長>

下流区間が約1.4キロメートルあり、第1陸閘より上流の工事を進めるには、下流の掘削を全て完了しなければならないと聞いている。来年度第1陸閘まで到達して、それに合わせて残りの下流約1.4キロメートルを実施いただければ、令和4年度からさらに上流に整備が進められる予定である。

<西口委員長>

そのような話は初めて聞く。計画によれば、ある程度同時進行で上流までいける感覚でいたが、そこまで待たなければならないのか。

<桂川・道路整備課長>

第1陸閘より上流の天井川区間の工事を進めるには、下流区間の掘削が全て完了していなければならないと聞いている。

<まちづくり推進部長>

確認はするが、下流が残り約1.4キロメートルで、昨年度が700メートル、今年も900メートルということで、もともと1.2キロメートルを計画されていたので、来年度一気に下流が完了するのか、残ったとしても、仮に第1陸閘を超えるところまで行って、次の年に上流に行くのと、下流が少し残っても同時にすることで、非出水期に施工すれば、出水期に対応できることになると思う。下流が完了しなければ、上流にいかないのではなく、並行して進められよう要望を含めて確認していく。

<西口委員長>

並行して進めるよう京都府に強く申し入れをしてもらいたい。来年度は第1陸閘まで、段差がきつい重要なポイントである。それを優先せずに、60メートルで止めたというのはおかしい話である。前の所長がおられたときに言っておられたとおりに進めてもらいたかった。担当者が代われば、大きく変わってくるのかということになってくる。しっかりと認識してもらいたい。常に下流ができてからでなければ、上流ができないという考え方ではなく、並行してできる分はどんどん進めてもらいたい。亀岡市がしっかりと認識していなければ前に進まない。京都府に桂川・支川対策特別委員会ですという声が出たということを申し入れておいてほしい。

<藤本委員>

春日橋の橋梁設計について、工事にかかり、できあがるのはいつごろか。

<桂川・道路整備課長>

占用物件が多いため、占用協議に時間がかかっている。明確な完成時期は公表されていないが、一刻も早く春日橋を架け替えて、次に春日小橋にとりかかってもらえるよう、継続して要望していく。

<藤本委員>

北町橋は工事にかかり、いつごろできるのか。

<桂川・道路整備課長>

現在、占用物件の移転協議をされており、順調にいけば、今年度ボックスカルバートの工事に着工される。

<藤本委員>

令和2年度中ぐらいにはできるのか。

<まちづくり推進部長>

確認は必要であるが、ボックスカルバート構造であるため、現場打ちを考えられて

いる。床版部分の支えが必要となるため、そのまま出水期である梅雨時期を迎えることはできないので、一旦着手するとやりきれなければならない。それらを見込み、調整等で若干着工が遅れて、梅雨までにやりきれないとすると、工事は遅れることとなるため、逆算して工事を進めてもらうよう要望したいと考える。

[まちづくり推進部退室]

14 : 18

3 その他

<西口委員長>

今後の委員会活動について、何か意見はあるか。今まで、現地視察を行ってきた。下流は国で進めてもらっているの、一定任せるしかない。見るとしても、嵐山の止水壁の状況がどうかまたは、亀岡市内の見たいところがあれば日程を調整して、行くことは可能である。今はコロナの時期であるので、どこまで実現できるかわからないが、現地視察程度ならば、3密を防げる範囲内で実施できると考える。

<並河委員>

千代川町から河川の整備状況を確認してはどうか。

<西口委員長>

河川敷内の伐採などの土砂の堆積等を視察するという提案をいただいた。時期を見計らいながらではあるが、委員会として進めていってもよいか。今年度の範囲内で考えてはどうか。一定進んだ状況を見たほうがよいと考える。そのほうが、足りない部分が見えてくる。6月16日から河川工事は止まるので、10月16日以降の着工となる。秋から年末前後の視察となるだろう。

<小川委員>

七谷川や雑水川の現場を見ながら、何が問題なのか、また橋の架け替えの断面等確認したい。正副委員長にお任せする。

<西口委員長>

支川の堆積土砂を含めて、視察を何らかの形で実施していきたいと考える。七谷川の掘削工事も10月16日以降にしか進まない状況である。本川・支川の堆積土砂を含めて、また提案させていただく。

資料の図面が小さく細かいのでわかりにくい、今後は大きめの用紙でつけてもらいたい。

～14 : 29